



Dai 1 NAIKA News

三重大学病院 令和 6 年 11 月 15 日
循環器内科、腎臓内科
季刊紙【第 29 号】

発行/三重大学大学院医学系研究科
循環器・腎臓内科学
〒514-8507 津市江戸橋 2-174
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201
<https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/naika1/>

腎臓内科領域における病診連携



腎臓内科
講師 村田 智博

平素より大変お世話になっております。今回は腎臓内科に患者さんを紹介いただきたく筆を執りました。同門の中には全身を診ることができる先生が多く、透析直前まで御加療いただいているかと思えます。今回、そのお手伝いをさせていただきたいというお願いです。そうすることで患者さんを長く、先生方と、我々でふたり主治医制として併診していきたいと考えます。

具体的にどんな患者さんのお手伝いができるか考えてみると①検尿異常の患者さん②慢性腎臓病（eGFR60 未満）の患者さん③腎代替療法（透析・移植）について考える段階（eGFR20 未満）の患者さんが挙げられます。

①検尿異常を呈する患者さん

検診で検尿異常を指摘された患者さんが先生方のところへ受診されるかと思えます。これまでに評価を受けていなければ、原因が何なのか、腎生検をすべきかどうかを含め検討します。既に評価を受けていても、私の指導医の言葉をかりと“検尿

は cost free biopsy”であり沈渣、尿定量などは豊富な情報源です。年 1 回でも経過を見させていただけると幸いです。若い検尿異常の患者さんを見過ごさないことが将来の透析導入を減らすと信じてます。

②慢性腎臓病（eGFR60 未満）の患者さん

慢性腎臓病における治療・療養の目的は進行抑制です。日常生活指導、進行抑制、合併症対策など、他に介入できる点が残っていないか確認します。また大学は非常に多くの職種がそろっています。多職種による介入が腎不全進行を抑えるとの報告もあります。

③腎代替療法（透析・移植）について考える段階（eGFR20 未満）の患者さん

腎機能が低下すると腎代替療法が必要です。大学では療法選択外来を行っており、十分な情報提供と SDM（shared decision making）を重要視しています。より深く患者さんに関わり、今後の人生をどう歩みたいかという希望を確認しながら治療法選択を考えてます。

いろんな段階での介入を考えてみました。ただこれに限らず、お悩み・お困りの症例がございましたらお気軽にご紹介ください。

新病棟医長ご挨拶



循環器内科
助教 大森 拓

この度、令和 6 年 10 月 1 日付で病棟医長を拝命致しました大森拓（2009 年卒）と申します。日頃より多大なご指導ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

私は 2009 年に三重大学を卒業後、市立四日市病院で初期研修を、鈴鹿中央総合病院で循環器内科を専攻し 3 年間後期研修をさせていただきました。その後、第一内科へ入局し、三重大学病院循環器内科で 4 年間、尾鷲総合病院で 2 年間勤務した後、2 年間の心エコー研究留学（Cedars-Sinai Medical Center）を経て、2022 年 1 月より再び三重大学で勤務させていただいております。研究留学から帰国した後は、主に心エコー業務を中心に診療に携わらせていただいております。

心エコーを日々行っておりますと、耳学問で知っていたつもりでも、実際にはあまり見たことのなかった病態や疾患を目にする機会が増えました。例えば、運動時のみに顕在化する僧帽弁閉鎖不全症や左室流出路狭窄、卵円孔開存による若年者の脳梗塞などが挙げられます。このような病態や疾患は、運動負荷心エコー検査や心エコーバブルテストなどの特殊な検査を行わなければ診断が難しいものになりますが、心エコー業務に携わる前は想像もしていなかった程に、このような患者さまは多

いと実感しています。また同時に、診断に至っていないがために、日々苦痛を感じておられる患者さま、高い再発リスクを抱えていらっしゃる患者さまも、おそらく多くおられるのだろと考えております。

病棟医長を務めさせていただくにあたり、私が特に注力したいと考えていることの一つは、このような本来は何らかの介入が望ましいが、未だ病態や疾患が認識されていないために、適切な医療を届けられていない患者さまの抽出、およびその方々への適切な医療のご提供になります。その実現のためには、皆さまとの密で細やかな病診連携が、これまで以上に大切だと考えております。そこでこの度、病棟医長携帯（070-2248-2684）を再度導入致しました。お困りの患者さまや、当院へのご紹介を悩んでおられる患者さまについてなど、お気軽にご相談いただけましたら幸いに存じます。また、出張心エコー業務も承っております。これまでも、心エコーバブル検査や、左心耳閉鎖術の適応判断のための経食道心エコー検査を、出張でさせていただいた前例がございます。一度検査をご覧いただければ、その次からは皆さまのご施設で行っていただくことができるものだと思いますので、是非一度、出張心エコーについても、お気軽にお声がけいただけましたら幸いです。

最後に、関係者の皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

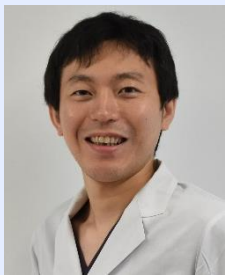


循環器内科

医員 宇野 拳太

平成 30 年卒の宇野拳太と申します。令和 6 年 10 月から尾鷲総合病院から三重大学医学部附属病院に赴任しました。臨床はもちろんのこと、大学院生として心不全管理アプリを用いた遠隔運動指導の臨床研究にも携わらせて頂きます。何卒、御指導御鞭撻のほどをよろしくお願いします。

ワンポイントレクチャー ～ANCA 関連血管炎～



腎臓内科
助教 齋木 良介

ANCA 関連血管炎は、抗好中球細胞質抗体（ANCA）が関与する自己免疫性血管炎で、主に小型血管を標的とします。腎臓について、軽度の検尿異常であっても ANCA 関連血管炎の可能性があり、病状が急速に進行することからも、早期に診断と治療を行うことが重要です。そのため、軽度の検尿異常の場合でもご紹介いただけますと幸いです。

ANCA 関連血管炎は顕微鏡的多発血管炎（MPA）、多発血管炎性肉芽腫症（GPA）、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）に分類され、それぞれ異なる臓器病変を呈します。腎臓以外の症状として、発熱、倦怠感、痺れ（末梢神経障害）、肺陰影、喘息、中耳炎などが見られることもあり、こういった症状が隠れていないか注意しながら診療しています。治療にはステロイドや免疫抑制薬の他に、近年はリツキシマブやアバコパンといった有効な薬が出てきており、治療の選択肢が増えていきます。

三重大学病院循環器内科、腎臓内科

～患者様をご紹介ください～

医療機関・クリニック

診療予約申込書をFAX →



← 診療予約票をFAX

三重大学病院 総合サポートセンター

※医療機関の方専用

FAX 059-231-5541

TEL 059-231-5552



1. FAX 新患予約

「診療予約申込書」「診療情報提供書」を FAX：059-231-5541 へお送りください。

※「診療予約申込書」は三重大学医学部附属病ホームページ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp> の「医療機関の方へ」からダウンロード可です。

2. 緊急受診、ご相談等

循環器、腎臓内科救急ホットラインへお電話下さい。病棟医長が直接対応させていただきます。

循環器内科		腎臓内科		外来担当医表			
		月	火	水	木	金	
循 環 器	初診	土肥 薫 伊藤正明 栗田泰郎	藤本直紀 原田慎一	岡本隆二 香川芳彦	杉浦英美喜 北野哲司 腫瘍循環器外来 (坂東泰子)	荻原義人 市川瑞貴 腫瘍循環器外来 (坂東泰子)	
	再診	伊藤正明 栗田泰郎 森脇啓至 岡本隆二 大森 拓 高崎亮宏 藤本直紀 石山将希 ハ°-スメ-カ-外来	荻原義人 土肥 薫 中森史朗 原田慎一	岡本隆二 香川芳彦	杉浦英美喜 北野哲司 山下大輝 桐井陽祐 腫瘍循環器外来 (坂東泰子)	荻原義人 中森史朗 佐藤 徹 香川芳彦	
	腎	初診	齋木良介	村田智博	小田圭子	片山 鑑	鈴木康夫
	臓	再診	片山 鑑	鈴木康夫	齋木良介	休 診	村田智博

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先(直通)

内科外来：059-231-5146

病 棟：059-231-5101

F A X：059-231-5518

研 究 棟：059-231-5015



患者様の紹介、相談にご活用ください。
季刊誌に関するご意見、ご質問は
下記メールアドレス、または当科 HP まで。
naika1@med.mie-u.ac.jp